



ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室

第 29 号 2019. 5. 20発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <http://hachisoku.org>  hachisoku@gmail.com  042-686-0820

郵便振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室



「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」に参加して

八王子平和・原爆資料館共同代表 上田紘治

はじめに

昨年5月8日から8月21日までの106日間「ピースボートおりづるプロジェクト」に参加しました。主な役目は、寄港地で各国の政府機関に働きかけ核兵器禁止条約に署名、批准を要請し、2020年までに世界で数億集め、国連に提出する「ヒバクシャ国際署名」の協力を得ることです。11年目の「おりづるプロジェクト」今回の参加者は3歳被爆の私、1歳被爆の長崎女性、広島被爆2世の男性3名で、原爆の記憶のない世代です。



一昨年の7月7日、国連で122カ国の多数で核兵器禁止条約が採択され、10月ICANのノーベル平和賞受賞は、今回のプロジェクトの大きな後押しでした。

それは、ギリシャではチプロス首相やアイスランド、パナマでは外務大臣、フランスやデンマークでは国会議員、シンガポール・コロomboでは政府高官などの方と面談、民間外交では考えられない方たちに直接、訴え要請できたことです。

船は22カ国25カ所寄港し、「証言」は15カ国18都市、船内でもカナダ・ハリファックスで議員・ジャーナリストの方たち、又、国連で決めた持続可能な開発目標（SDGs）のメンバーや各国から集まったオーシャンユースなどの方たちとも交流をしました。

アジア、ヨーロッパ、北欧

対応する政府高官は個人的には平和への思いは一致しますが、国としての対応は異なりました。NATO（北大西洋条約機構）やNPT（核不拡散条約）、対米、対日を意識し、ハードルは高く感じました。改めて軍事同盟の役割は何かを考えさせられました。

スウェーデン・ストックホルムでIPPNW（核戦争防止国際医師会議）の方は「9条は大丈夫か」と質問。スウェーデンは1998年に誕生した「新アジェンダ連合」に加盟し、ノルウェーやフィンランドなどと積極的に平和活動をしていましたが、政権が交代し脱会しています。復帰の可能性は限りなく「NO」とのこと、アフリカやシリアなどから増え続ける移民や難民問題が大きな社会問題となり、国民の意識が保守的になっているように感じられました。

イタリアは核兵器禁止条約を全国の各自治体が国に対して「批准せよ」と決議を上げる運動をし、教会の施設に200名くらい集まった皆さんの前で被爆体験を話しました。

リスボンから3泊4日ほど船を離れ、フランス・パリでは平和市長会議の方や、3つの政党内の上院議員と懇談や記者会見しましたが、面談後、国会図書館に案内され、ナポレオンのイニシャルが入った椅子、フランス最初の憲法などが豪華で贅沢な内装を施された室内に、膨大な量の図書と共に展示、保管されていました。

デンマーク・コペンハーゲンでは外交委員会の国会議員の方たちに「証言」と交流、同席した野党で緑の党の方は私たちの意向に沿った発言でした。

ハリファックス、NY、シアトル

カナダ・ハリファックスでは船内に議員やジャーナリスト、外務省の事務官などの方たちを招いて「証言」と交流を実施しました。

NYでは国連に出向きメキシコとオーストリア国連大使と面談、両国は核兵器禁止条約の採択に向けて重要な役割を果たした国です。

シアトルではどこまでもの荒野を、猛スピードで3時間かけて駆け抜け、戦時中プルトニウムを製造し（これが長崎に投下された）、今は博物館になっているハンフォード原子炉を見学し職員の方と交流しました。被爆者の訪問に不安があったそうですが、理解し合ったことに安堵したとの発言がありました。

ハンフォード原子炉から約 30 km風下の被爆者の男性との交流では、731 部隊の石井四朗が来たこと、クリントン大統領時代、ご自身も含め付近の住民から発病や奇形児が生まれ、被爆被害を償えと体制側からの嫌がらせを跳ね除け、一人、法廷で勝訴、1000 ドルの補償を得た。しかし、それ以外何もないと話されました。広大な土地入植の条件は、第2次世界大戦で活躍した若い兵士夫婦で、幼子がいる家庭です。国は被爆することを見通して、住まわせたと思わざるを得ません。全米で数百万人の被爆者がいると話されました。

キューバ、パナマ、コスタリカなどの中南米

中南米各国は私たちの思いと全く一致し、政府関係者、大学や市民団体、自治組織など各地で大歓迎でした。国営・民間TVや新聞社、ラジオなどの取材も沢山受けました。

チェ・ゲバラとカストロがアメリカの不当な干渉から、革命を成功に導いた国キューバ、核兵器禁止条約をまとめたホワイト議長で軍隊のない国コスタリカ、核兵器のない世界を主張し続けるメキシコ、コーヒーが世界で一番おいしいと主張するコロンビア、大西洋と太平洋で海面差 27m、運河の収益が国益の大半、核兵器禁止条約の批准を言明したパナマ・・・自らの力で独立を勝ち取った国々は魅力一杯です。女性の活躍も共通で、コスタリカでは議員の 40%以上が女性と法で定め、男社会日本との落差を実感です。

貴重な体験を今後にかす

ヨーロッパで先進国と言われる国々は、核兵器禁止条約の批准には消極的で中南米は積極的です。真の先進国とは経済面と平和問題がそろってこそと感じました。

核兵器禁止条約署名国は現在、70 カ国、23 カ国が批准です（2019年4月11日、新たにパナマが批准）。50 カ国が批准すれば90日後、国際法として効力を発揮します。いよいよ、核兵器は「悪魔」のレッテルを貼られる時代、人類史でも画期的な局面に生きています。

船には船長と400名のスタッフに国内外から約1000名の乗客。「ヒバクシャ国際署名」を700筆近く船内で集めました。

憲法9条を持つ戦争被爆国日本に、核兵器禁止条約に積極的に取り組む政府を一日でも早く実現するよう、残り少なくなった人生、被爆者の一人として尽力したく思っています。

(編集部注: 批准国は☆オーストリア、☆クック諸島、☆コスタリカ、☆キューバ、☆エルサルバドル、☆ガンビア、☆ガイアナ、☆バチカン市国、☆メキシコ、☆ニュージーランド、☆ニカラグア、☆パラオ、☆パレスチナ、☆パナマ、☆セントルシア、☆サモア、☆サンマリノ、☆南アフリカ、☆タイ、☆ウルグアイ、☆ヴァヌアツ、☆ベネズエラ、☆ベトナム)



イタリア 州都カリアリにて被爆体験を話す
上田さん（中央）

「安定ヨウ素剤を全市民に配布してください」の請願を終えて

ハカルワカル広場共同代表 西田照子

今回、ハカルワカル広場は「安定ヨウ素剤を全市民に配布してください」の請願を八王子市議会に提出した。厚生委員会で審議され、さらに本会議にかけられたが、不採択であった。この請願は昨年11月にハカルワカル広場が行ったヨウ素剤の自主配布会を受けて、山田真医師の言葉——「自分たちだけが持つことで安心せず、どの子供も市民も持つよう、自治体に要望してください」に背中を押されてのことだった。それこそハカルワカルの「みんなの子どもを放射能から守りたい」という願いと一致するもの。実行したいと切に思った。

私たちの不手際からわずか3週間の署名集めとなったが、ハカルワカルの会員、金八デモの方々、また生協など他の市民団体の熱心なご協力のおかげで最終的に 1627 筆を集めることができた。（毎日、毎日、「こんなに大切なことをしてくれてありがとう」などのコメントを添えて郵送されてきた。写真参照）

市議会の厚生委員会での議論は「趣旨は理解できるが反対です」との意見が述べられ、反対の理由が明確ではなかった。私たちは原発の無い社会を求めて運動しているが、現実には再稼働され、現在9基が動いている。原発が稼働している限り、甲状腺がんの予防薬であるヨウ素剤は必須である。ヨウ素剤が非常に安価（1錠5円）であり、副作用がほとんどないことも全市民配布に適している。欧米ではチェルノブイリ事故以降、政府が国民に配布したり、町の薬局で容易に入手可能である。たとえば、原発推進に賛成の人でも、ヨウ素剤は必要と考えるのが道理であろう。しかし、市の見解を求められると、保健課長は「国の指針では5キロ圏内が配布、30キロ圏内が自治体備蓄であり、国の指示を受けて飲むことになっている」と答えた（市の見解を求められて国の指針を述べている）。国の指示を待っていたのでは間に合わなかったことは福島原発事故で私たちが学んだことである。採決は与党（自民、公明、市民クラブ）の5名が反対、野党（共産党、生活者ネット）2名が賛成で不採択となった。子どもの命を守るヨウ素剤の配布は超党派で賛成されるべき案件ではないだろうか？ また、市議会は市民の健康・命を守るために、国の指示待ちではなく、市民に寄り添う政策をとってもいいのではないかと（それこそが市議会の存在理由！）

残念な結果であったが、この署名活動を通じて思わぬ効用もあった。ヨウ素剤配布という具体的な要求であるため、原発賛成の人にも署名をいただきやすく、また原発に関心のない人との対話にも入りやすかった。次のような感想をいただいた。

（寄せられた感想）

- * 「子供の命を守っていなかった。ヨウ素剤を知らなかった。」 「もっと学びたい。」
- * 市民の間で議論が交わされたことは民主主義と思った。
- * 署名をもらう時、福島の今や原発のことを話せた。
- * 今回のような身近ないいアイデアを見つけて頑張って！
- * 短期間でそれだけ多くの方が賛同していることこそが事実で、皆が求めていること。



写真（郵送された署名の封筒）

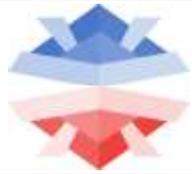
脱原発の実現には原発反対運動の外側の人にも輪を広げる必要がある。このヨウ素剤配布の署名活動はそのための有効な手段となりうると思った。さらに、生協や他の市民団体と連携を深めることができた。準備期間が短かったことなどの反省点もあるが、脱原発運動に多くのヒントを与えてくれた。会員をはじめ皆様の温かいご協力に感謝するとともに、この請願運動が全国に広がることを願っている。



測定結果 (2019 年 2 月～4 月)

ゼオライトの測定値は初期値引き算前 (Cs134 の初期値は 30Bq/kg 程度)

検体	採取	県名	産地・採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	Cs134 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	備考
ゼオライト	2019. 4	東京都	八王子市館町	992	1000	195. 0	39. 0	51. 6	11. 2	館町 E
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	1008	1000	188. 0	38. 0	53. 6	11. 5	館町 E
土	2019. 2. 16	東京都	八王子市中山	702	1000	166. 0	33. 0	17. 6	5. 1	
土	2019. 3. 5	東京都	八王子市北野台	1128	1000	157. 0	31. 0	18. 8	4. 6	
土	2019. 2. 18	東京都	八王子市北野台	427	1000	140. 0	28. 0	30. 9	7. 9	60 分測定
土 (少し湿る)	2019. 2 月上旬	東京都	北八王子	1049	1000	138. 0	28. 0	30. 3	7. 0	
集水樹の土	2019. 2. 25	東京都	八王子市北野台	1153	1000	114. 0	23. 0	27. 8	6. 4	
苔 (土混じり)	2019. 4. 12	東京都	八王子市打越町	597	1000	108. 0	23. 0	21. 1	6. 2	
土	2019. 2. 6	東京都	八王子市小宮町	436	500M	97. 8	21. 1	18. 9	5. 9	
土つきの苔	2019. 2. 18	東京都	八王子市北野台	420	1000	95. 4	20. 1	18. 2	6. 0	60 分測定
土つきの苔	2019. 3. 12	東京都	八王子市北野台	893	1000	67. 1	14. 3	21. 8	5. 6	
土	2019. 4. 16	東京都	八王子市八幡町	501	1000	58. 5	13. 1	22. 3	6. 1	60 分測定
土 (少し湿る)	2019. 2 月上旬	東京都	八王子市久保山	1083	1000	55. 5	11. 9	20. 2	5. 0	
土	2019. 2. 15	東京都	八王子市小宮町	1392	1000	49. 6	10. 2	8. 6	2. 5	
土 (里山頂上)	2019. 2. 16	東京都	八王子市中山	970	1000	46. 4	10. 2	14. 0	4. 0	
土 (少し湿る)	2019. 2 月上旬	東京都	北八王子	1309	1000	45. 9	10. 4	39. 4	8. 7	
土 (庭の土)	2019. 4. 16	東京都	八王子市絹ヶ丘	1051	1000	44. 7	9. 8	14. 6	4. 0	
ゼオライト	2018. 12. 21	東京都	八王子市長房町	1030	1000	36. 8	8. 7	32. 8	7. 5	長房 A
土 (畑の横)	2019. 2. 16	東京都	八王子市中山	1065	1000	36. 7	8. 4	16. 2	4. 4	
ゼオライト	2019. 4	東京都	八王子市館町	868	1000	34. 4	8. 7	39. 0	9. 0	館町 B
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	867	1000	30. 4	8. 1	39. 9	9. 2	館町 B
土	2019. 3. 25	東京都	八王子市北野台	657	1000	29. 0	6. 9	8. 2	3. 3	60 分測定
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	894	1000	28. 6	7. 7	39. 3	9. 0	館町 C
腐葉土	2019. 3. 25	東京都	八王子市北野台	331	1000	28. 4	9. 0	22. 6	7. 5	60 分測定
ゼオライト	2019. 4	東京都	八王子市緑町	547	1000	27. 2	9. 4	47. 3	11. 5	緑町 A
ゼオライト	2019. 4	東京都	八王子市館町	907	1000	24. 5	7. 0	41. 6	9. 4	館町 C
ゼオライト	2019. 4	東京都	八王子市館町	811	1000	24. 4	7. 2	36. 0	8. 5	館町 F
原木シイタケ	2019. 3. 19	群馬県	群馬県産	449	1000	23. 7	7. 1	18. 6	5. 8	60 分測定
砂 (浅川)	2018 春	東京都	日野市	1262	1000	20. 1	5. 4	23. 0	5. 5	
ゼオライト	2019. 1. 31	東京都	八王子市横川町	988	1000	20. 0	6. 1	40. 9	9. 1	横川町 A
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	819	1000	19. 4	6. 7	42. 7	9. 8	館町 F
池の泥	2019. 3. 31	東京都	八王子市北野台	1290	1000	16. 0	4. 0	2. 9	以下	
砂場の砂	2019. 2. 26	東京都	日野市日野台	1438	1000	13. 6	4. 0	15. 9	4. 0	
ゼオライト	2019. 3. 26	東京都	八王子市寺町	1039	1000	13. 4	3. 7	31. 6	3. 6	寺町 A
ゼオライト	2019. 2. 13~	東京都	八王子市横川町	1079	1000	13. 1	4. 8	30. 7	7. 1	横川町 A
砂 (砂場)	2019. 3	東京都	日野市	1734	1000	12. 5	3. 7	18. 4	4. 4	
キノコ加工品	2018. 9. 28	山梨県	富士山	934	1000	12. 3	3. 8	4. 0	以下	
ゼオライト	2019. 1. 31	東京都	八王子市高尾町	992	1000	10. 8	4. 9	38. 8	8. 7	高尾町 A
ゼオライト	2019. 2. 13~	東京都	八王子市高尾町	982	1000	9. 2	4. 6	33. 3	7. 7	高尾町 A
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	1058	1000	8. 2	4. 2	35. 2	8. 0	館町 D
ゼオライト	2019. 2. 10	東京都	八王子市北野台	1121	1000	7. 9	4. 1	36. 7	8. 2	北野台 A
シイタケ菌床	2019. 3. 8 購入	群馬県	安中市	428	1000	7. 4	4. 6	6. 9	以下	60 分測定
ゼオライト	2019. 2	東京都	八王子市館町	876	1000	6. 9	5. 0	41. 3	9. 4	館町 A
原木シイタケ	2019. 3. 14	東京都	八王子産	629	1000	5. 6	3. 0	4. 6	以下	60 分測定



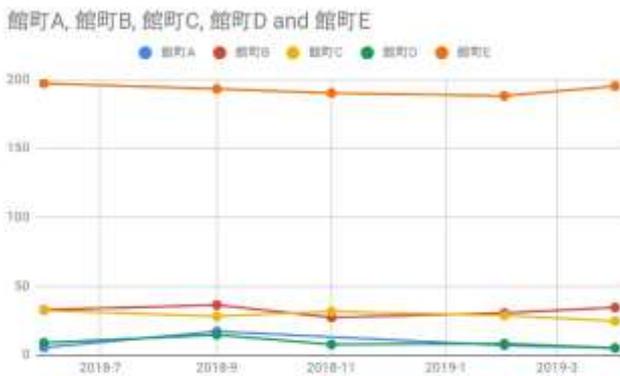
ハカってワかった話

二宮 志郎

リストのトップは館町 E ゼオライト

この3ヶ月間の測定結果リストを見れば、館町 E のゼオライト測定値がトップの2つのポジションを占めています。ゼオライト測定は、ゼオライトを交換しない限り積算値が出てくるので2月に測って高かったら4月も高いのは当然で、何も驚くようなことではありません。たまたま、この3ヶ月間に他に高い測定値が出るような検体がなかったことを示しています。

ゼオライトの場合、その変化値に注目することが重要になります。



縦軸: Cs137検出値(Bq/kg)、横軸: 測定年月
不検出は点を表示させるために5Bq/kgに置き換えている。

上のグラフは、約1年分の同じ館町の5測定点の検出値の変化を示しています。(1年間に5回もの測定をしてくれていることに大変感謝、貴重なデータになっています。)これを見れば、この5箇所では、この1年間に有意な変化がなく、Cs137 の降下がほとんどないことがわかります。館町 E は、開始時点の初期値が高かっただけで、他の地点との違いは観察できません。

前年との違い

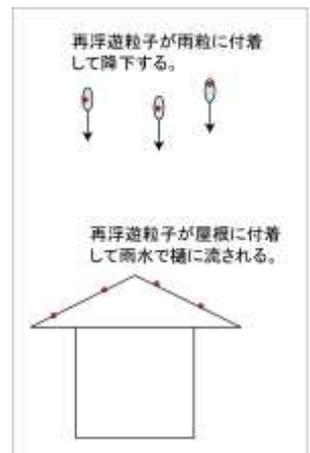
同じ館町の5箇所について、その前年の 2017 年の検出値を同様のグラフで示します。館町 A~D は同様にほとんど検出されていませんが、館町 E は測定毎に検出されており、積算値は直線に近いような形で右肩上がりになっています。



2017年の館町 E だけ検出の謎

2つの謎があります。「同じ館町5箇所の測定点で、館町 E だけが検出されたのはなぜ」、「館町 E は 2017 年に検出されていたのに、2018 年には止まっているのはなぜ」。

雨樋下のゼオライトに Cs137 が吸着される道筋には、右図の様な2種類が考えられます。私は、再浮遊粒子はそれほど微細ではなくて屋根に直接固着する分の寄与が大きいと考えているのですが、そうであれば屋根の向きや材質が測定結果に影響してきます。近所の測定でも検出される値に大きな違いが出ることは、これである程度説明することはできるのですが、「1年たつと急になくなる」ということは説明できません。



「放射能の再浮遊は年数経過とともに減少する」ということは、考えられますが、急になくなるというような現象にはならないはず。「土が表面に露出していた地表面が、工事などにより露出しない様に変化した」、あるいは「土を舞い上がらずような近所の工事が終了した」というようなことは推測できますが、実際どうなのかはわかっていません。

ゼオライト測定に参加されている方、謎に思われる現象に出会ったら、是非ご自分でも謎解きにチャレンジしてみてください。測定場所とその周囲に注意深い観察を行うことが謎解きの鍵を与えてくれるはず。です。



福島原発事故で避難を余儀なくされた被災者の方々は、その損害賠償請求裁判を各地で行っている。愛知県で行われている裁判について、会員の加藤木京子さんを通し「原発事故避難者の会・愛知」の渡辺優子さんに寄稿をお願いできました。裁判では特に「無用な被ばくを避けるための避難の相当性」を掲げ闘っておられます。渡辺さんには結審を終えお疲れのところ執筆いただき感謝いたします。ハカルワカル広場も微力ですが支援していきます。（編集部より）

原発事故損害賠償請求訴訟・愛知岐阜裁判に寄せて

原発事故避難者の会・愛知 渡辺優子

私たち原発事故避難者の会・愛知はメンバーが原告となり訴えている裁判（原発事故損害賠償請求訴訟愛知岐阜）に力を入れてきました。この訴訟が2019年3月12日に結審を迎え、夏頃判決が出る予定です。ハカルワカルの皆様にも裁判長へのメッセージハガキにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

ご注目いただきたいのは、京都精華大学名誉教授（環境学）の山田國廣先生の被曝量算定を利用したことです。具体的には、個人や家族の行動記録より以下の外部被曝線量（mSv）を算出しました。

- （1）2011年3月から2018年3月まで（避難前と避難後の合計）の被曝線量
- （2）事故前の住所に同様に住み続けた場合の被曝線量
- （3）避難したことにより低減した被曝線量
- （4）2019年3月に避難先から事故前の住所に帰還した場合、1年間に増加する被曝線量

この被曝量算定は、眠っていた公共データとSPEEDI（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）のデータを組み合わせて、福島第一原発から放出された放射性プルームが到来した時、そこにいた人が最低限（ガンマ線のみ）どれだけ被曝したかを明らかにします。放射性プルームは福島県内だけでなく東日本の広域に拡散したため、多くの人にとって大切な証拠となります。

特に重要なのは、初期被曝の算出です。例えば、ヨウ素131のように原発事故当初にしかない放射性核種からの初期被曝は、人体の細胞を傷つけたにも関わらず、直後に国が測定しなかったため、なかったことにされようとしています。事故後に自治体が行ったホールボディカウンターでの内部被曝検査は、半年から2年経った後に検査を受けた人が多く、時間が経過していたため内部被曝を検出できていません。訴訟の中でも国は、原告にホールボディカウンターでの検査結果を証言するよう求め、「異常なし」という人がほとんどだったことを裁判官にアピールしました。

さらに、文部科学省が全国の小・中・高等学校から子どもたちに配布した放射線副読本でも、「福島市の空間線量率の推移」のグラフで2011年3月の非常に大きい初期被曝を削り、2011年4月～2018年7月の線量のみをグラフに表しています。

このように国の方針として初期被曝には触れたくない傾向があるので、被害者側は努めて初期被曝を含めた被曝量を大切にする必要があります。

国や東京電力の責任を問う集団訴訟は全国で約30件あり、勝訴したところも、避難の相当性が認められる期間が非常に短いため賠償額はかなり低く、残念ながら司法の場で被害の全容を認める形ではありません。

国の加害責任は6度認められました。津波を予見しながら事故回避策を取らなかったため原発事故を防げなかったというものです。ですが、事故回避策として水密化（非常用発電機のある建屋に防水を施す）すれば原発事故を防げたとする判決は心配な面もあります。原子力規制委員会の新基準も、津波対策は防潮堤を高くし、水密化すれば再稼働できるとしているからです。津波対策さえすればよいという風潮の固定化は、原告や市民社会にとって有益なのでしょうか。

本質的な部分で、無用な被曝をさせた責任を問いたいと願う原告がいるものの、周りの環境がそれを許さず、涙を呑む状況もあります。裁判上のテクニックとして責任を認めさせた実績を真似る弁護士判断と、原告の思いに差はあったとしても、それでも何らかの国の責任を認めさせ、少しでも避難の相当性を長く認めさせることに注力することには大きな意義があります。一歩ずつ進めるほかありません。どうか、各地の原告や訴訟を引き続き見守っていただきますようお願い申し上げます。

3月2日 恵泉女学園大学 上村英明教授 講演概要

ウラニウムから見える「核問題」 ヒロシマからフクシマへ

恵泉女学園大学の平和学の講座では、平和について考える考え方について勉強します。広い視野で深く考えれば物事は見えてくると。知識だけではなく、平和について考えること、またどういう視点から考えるかに重点を置いています。

グローバル化時代の市民が平和について考える時、何を目指したらよいのか？ 私はマハトマ・ガンディの考え方を紹介しています。ガンディは一本の鉛筆を取り上げて、この鉛筆はどこから来たものなのか、木材は、黒鉛は、だれがどこでどうやって作ったものなのか、そういうことを考える力を持つことが本当に勉強することなのだと聞いたそうです。僕らは目の前のことに追われがちですが、その背後にあるものに想像力を広げ、隠れた構造を源流まで見極めることが平和への思考なのだと。



では、ヒロシマ、ナガサキの原爆はどこからきたのか？ 放射性物質の研究はドイツとチェコの国境ヨアヒムスタール鉱山の鉱石から 1789 年にウラニウムが発見されたことに始まる。1938 年にはオットー・ハーンが核分裂について論文を発表し、翌年にはナチスドイツが原爆製造計画を発令した。当時最も良質なウラン鉱石が採れたヨアヒムスタール鉱山のあるズデーデン地方を 1938 年にドイツが併合し、これに危機感を抱いたアインシュタインがアメリカ大統領に書簡を送り、これが巨大国家プロジェクト、マンハッタン計画につながる。アメリカ国内のレッドロック鉱山でもウラン採掘を始めるが、秘密プロジェクトのため採掘現場の労働者にはウランであることが知らされず被曝させられた。このほかアメリカはカナダ、コンゴからもウランを購入したが、コンゴ産の品質が良く、抽出したウランの 80 パーセントはコンゴ産だった。コンゴのシンコロブエからアメリカに運び、濃縮されて原爆が作られた。なのでヒロシマ、ナガサキに降った放射性物質はアフリカ産だったのです。

原爆投下はいろいろな面から見る必要があります。国際政治の構造、日本の軍国主義がアジアを支配していたこと、広島が軍都であり日本の侵略主義の拠点であったこと。アメリカの覇権主義、ソ連の思惑。日本の陸軍、海軍も原爆製造計画を持っていたことも。

ではフクシマのウランはどこから来たのか？ これはオリンピックダムというオーストラリア南部にあるウラン鉱山から来ています。東京電力と関西電力がここから買っている。オーストラリアの先住民はウランが有毒であることを知っていて、土の中に埋めておきなさいという教えを守って来た。それを鉱山会社が掘り、日本の会社と政府が買っている。オーストラリアは原発を持たない主義なのは立派ですが、ウラン鉱石を売ることによって世界経済でのポジションを高めようとしている。露天掘りの鉱山からの粉塵や水が溢れて汚染が広がり地域住民が被曝する。核問題というのは、原発とか原爆とかではなく、ウランから始まっているのです。

またオーストラリアには植民地主義的構造の問題もあって、1953 年にイギリスの核実験が行われています。オーストラリアにとってかつての宗主国であるイギリスは今でも大きな力を持っている。イギリスの核実験がオーストラリアで行われ、アボリジニの人たちはシェルターにも入れてもらえなかったという構造がある。

このように、現実に見えているものの背後に何があるのかというところまで考えないと、目の前のものに踊らされてしまうので、いろいろな視点からのものの見方を教えるということを平和教育の中でやっていこうと思っています。(文責 石井暁子)





測定室からのご報告とお知らせ

- * 3月2日(土) 定例お茶会「ウランウムから見える「核問題」ーヒロシマからフクシマへ」
上村英明恵泉女学園大学教授をお迎えして、上記の講演を行っていただいた。平和を考える時にも「現実の背後に何があるかということまで考えることが大切」と強調された。ヒロシマの原爆はどこから来たのか? フクシマに降った放射性物質はもともとどこから来たのか? 知識だけではなく「考え方」に力点を置けばものは見えてくると話されました。詳しくは p.7 をご覧ください。(参加者 24 名)
- * 「安定ヨウ素剤を全市民に配布してください」の請願を八王子市議会に提出
3週間で1627筆の署名が集まるも不採択となった。詳細は p.3 をご覧下さい。署名のご協力に感謝です!
- * 4月6日(土) 定例お茶会「微量放射能の危険性・1mSvを巡って」
ハカルワカル測定指導担当の二宮志郎さんによる「1mSvのリスクをどう考えるか」についての講演会。まず寸劇(脚本:二宮志郎、出演:ハカルワカル事務局メンバー)から始まりました。寸劇のあらすじは「ある学級が山の中で道に迷う。先生はワニのいる川を渡って帰るリスク1%の方法とクマのいる森を通って帰るリスク5%の二つの方法を提示し、リスクの少ない方法を勧める。しかし、すべてに行動の遅いアリオは数値で示される平均的子どもをモデルにしたリスクマネージメントに疑いを持ち、自分の納得のいく森を通る方を選ぶと決め、声を上げ、他の生徒と議論する。その間に先生はヘリコプターで逃げてしまう。」というストーリー。道に迷わせたのに逃げてしまうのは原発推進の人たち? 二宮さんは、「彼らのやることは「アリオ君に声を上げさせない」ことであって、100,000人中の99,995人で5人を脅迫していくことだ。5人の人達の話聞ける社会でなければ、結局99,995人にとっても幸せではない社会になっていくのでは?」と疑問を投げかけます。笑いながらもリスクマネージメントの本質が理解できる寸劇に大拍手でした! ある参加者から次のような感想が寄せられました。「この寸劇に私は自分の思いをきちんと伝えること、人に寄り添うこと、自分の頭で考えること、他の立場を無視しないこと、正しいと思うことを行動すること、あきらめないこと、ダメなことはダメと判断すること、実に多くのことを問いかけられました。脚本の二宮さんに脱帽です!!!」(参加者 21 名)
- * 5月11日(土) 第21回ハカルワカル映画会「祝福(いのり)の海」
「今、母なる地球とすべてのいのちと繋がりを取り戻すために——」とこの映画のキャプションにある。正面から原発反対を唱えるのではなく、静かに命の賛歌と原発の無い世を訴えている映画でした。東条雅之監督作品

これからの予定

- * 6月1日(土) 10時~12時 2019年総会……ぜひご参加ください。総会后意見交換会です!
- * 7月6日(土) 定例お茶会「地域に根ざした草の根活動ー先駆のお二人(山本智恵子さん、斎藤金夫さん)に聞く」
- * 8月のお茶会はお休みです。

お知らせ

「2019年総会のご案内」

日時: 6月1日(土) 10:00~12:00

場所: ハカルワカル広場

ぜひご参加ください!!!



ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室

ハカルワカル広場

お電話 192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F
問合せ **042-686-0820**

HP: <http://hachisoku.org> メール: hachisoku@gmail.com
【開室】火~金曜日:10時~15時、土曜日:10時~12時

ボランティア、維持会員募集中!

お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です! ゆうちょ銀行 00180-8-290904(八王子市民放射能測定室)、
他行からの振り込みは 018-0224460(八王子市民放射能測定室)